

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E142N009	英語の心理言語学 (English Psycholinguistics)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	3	教育学部			氏名 大谷由布子 E-mail otaniyuko@oita-u.ac.jp 内線 7580											
授業の概要	人がことばを獲得する過程、言語の認知処理と生成過程など、心理言語学の基本的な知識を習得する。講義とディスカッションに加え、各自であるいはグループで事例研究をしたり、実験的手法を使って結果を分析したり、研究計画を立てるなど、身近な事例をもとに言葉と心理の関係について学ぶ。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	言語習得の過程を知ること、どのような順序で学習を進めればよいかを予測することができる。																
目標2	言語の理解と産出について理解すること、よりよい学習や指導の在り方、そのための方法を提示することができる。																
目標3	調査や研究の基本的な手法について知り、授業や研究活動に役立てることができる。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	子供の認知的発達とことば																
3	言語習得のメカニズム																
4	年齢と言語習得																
5	言葉を理解するプロセス																
6	言葉を産出するプロセス																
7	動機づけを高める心理言語学的アプローチ																
8	聞く指導における心理言語学的アプローチ																
9	話す指導における心理言語学的アプローチ																
10	読む指導における心理言語学的アプローチ																
11	書く指導における心理言語学的アプローチ																
12	心理言語学研究の手法																
13	質的研究と量的研究																
14	グループ発表(研究計画)																
15	まとめと振り返り																
ラーニング	A:知識の定着・確認	予習と復習を通して、省察と考察を深める。心理言語学のテーマについて、グループワークを通じて協働し課題を探究する。興味のあるテーマについて研究の計画をたてる。					工夫	その他の									
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	予習課題への取組(1時間)															
	事後学修	学習内容の見直しと振り返りノートへの記入、課題への取組、研究テーマの探求(1時間)															
教科書	資料を配布する。																
参考書	Zoltán Dörnyei, "Research Methods in Applied Linguistics" (2019), Oxford University Press.																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	授業内での取り組み	40%															
	課題(研究計画の作成や発表)	30%															
	定期試験	30%															
注意事項	なし																
備考	なし																
リンク																	
	URL																

教員の 実務 経験	・英国出版社における英語教材開発 ・文部科学省英語教育推進プロジェクトオフィサー
実務経験を いかした教 育内容	・産官の視点を共有し、英語教育をより多角的にとらえられるようにする